○議長（茅沼隆文）

引き続き、一般質問を行います。

それでは、7番、下山千津子議員、どうぞ。

○7番（下山千津子）

皆様、こんにちは。7番議員、下山千津子でございます。

通告に従いまして、男女共同参画事業推進策の充実した展開をの質問をさせていただきます。

平成27年3月に、町政とまちづくりに女性の視点をより生かすためにはの質問をさせていただきました。本町は、第五次開成町総合計画及び第3次かいせい男女共同参画プランを策定し、男女共同参画社会の実現に向けた様々な施策の推進を図られており、大変に期待をしております。男女共同参画プランは、策定後4年が経過し、世の中は著しく変化をしております、本町においては町内の女性の力が生かされないままの施策が続いているように感じております。

例えば、本町は人口が増え、子どもの数も増えているものの、一方では子ども会を解散する自治会や婦人会、老人会員の減少等の課題も露見されており、また、自治会の役員のみならず手不足の課題もあり、今後は、これまで以上に地域（自治会）の課題解決に対して女性目線で探求し、多様な視点や感性を生かす環境づくりがますます重要になっていると考えます。女性の持つ潜在的な力を大いに発揮できるよう、大きな御理解で町の未来を切り開きイメージアップにつながる政策を展開すべきと考え、次の質問をいたします。1、各種審議会への女性委員の登用率の現状は、2として女性を登用するための策は。

以上、壇上からの質問とさせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、下山議員の御質問にお答えをいたします。

平成28年度に内閣府が実施をした男女共同参画社会に関する世論調査では、社会において男性のほうが優遇されていると考える人が約74%という結果でありました。平成27年には女性の職業生活における活躍の推進に関する法律、いわゆる女性活躍推進法が施行し、昨年には政治分野における男女共同参画の推進に関する法律、いわゆる政治分野における男女共同参画推進法が施行され、女性の社会参画に向けた着実な取り組みが社会に求められております。

このように、人口の半分を占める女性の意見、意思が広く社会に公平に反映されていくために、今後、政治や経済をはじめ社会のあらゆる分野で女性の参画や女性リーダーの育成など、主体的な担い手として女性参画促進が重要であると考えております。

それでは、順次、御質問にお答えをします。

まず、1点目の各種審議会へ女性委員の登用率の現状について、お答えをいたします。

地方自治法に基づく各種審議会等における平成30年度調査時点の女性登用率の状況は、全体で24審議会、205名の委員のうち19団体、55名が女性委員であり、登用率は総合計画の目標値40%に対して26.8%であります。ただし、町健康づくり推進協議会は63.8%、町子ども・子育て会議72.7%など、子育てや健康づくりなど女性委員の参画が有効な分野における登用率は高いものとなっております。これは、審議会等の性格上、柔軟な対応ができているものと理解をしているところであります。

審議会等の女性委員登用率向上の取り組みとしましては、委員を公募する際には男女比率に考慮することや、関係団体から委員を推薦していただく際にも女性委員の推薦に配慮していただくよう依頼をしております。しかしながら、現状では委員が各団体の代表者等から選出されているケースも少なくなく、結果として男性委員が大半を占める審議会等もあり、全体として目標値を下回っているのが現状であります。

今後、委員の選出にあたっては、一般公募枠の拡大の検討や、団体の代表者等に限定せずに女性委員を推薦していただけるよう推薦母体である関係団体に働きかけをしていくとともに、その団体自体の女性比率が高められるよう女性委員の登用に努めていきたいと考えております。

次に、2点目の女性を登用するための策はについてであります。

町の男女共同参画を担っている男女共同参画推進ボランティアの活動として、毎年、ワールドカフェ方式でのワークショップや情報誌「かけはし」の発行等により、町民への普及啓発をはじめ女性の社会参画を高める取り組みを行っております。

例えば、昨年11月に開催したワークショップでは、男女共同参画の視点から、地域参加や防災をテーマに、年齢、性別、立場、職業を超え、参加者同士が気楽な雰囲気の中で意見交換を行うことができました。地域で防災について活動をされている団体の「たんぽぽ」さんを講師に、女性ならではの視点を生かした活動事例や団体ができ上がったきっかけ等について話をいただきました。

このワークショップの参加者からは、「若い人たちに声をかけていきたい」、「幅広い世代の方と交流してみたい」、「防災について、改めてもう一度考えてみたい」など、同じ町内に居住する仲間同士で地域のことを共有することができました。自分にできる第一歩は何かを考え、また、それを言葉にすることができ、男女共同参画の意識が向上する結果となり、この結果は次のステップアップへとつながるものと期待をしております。

また、昨年設立されたみなみ自治会では、「女性参画と多様性」をキーワードに、全ての年代、男女に優しく、子どもでも安心して参画できる自治会活動を推進しております。みなみ自治会では自治会役員を男女同数となるよう目指しており、皆が活動しやすいよう負担のスリム化など、様々な工夫をして地域活動に取り組まれております。

今後も、広報紙やホームページ等で男女共同参画に関する取り組み事例の紹介や関係団体等の協働を進め、あらゆる分野において女性力の活用を促し、積極的な参画・

登用を働きかけていきたいと考えております。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

一定の答弁をいただきましたので、再質問をさせていただきます。

1985年、昭和60年に、男女雇用機会均等法が施行されたことは既に皆さん御承知のことと思います。それ以来、既に30年あまりがたちますが、以後、育児休業法や次世代育成支援対策推進法が制定をされ、仕事と家庭の両立支援や雇用管理における男女の均等推進が進められてきました。そして、2003年には、社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度にするという国全体としての目標も掲げられました。

しかし、雇用者全体に占める女性の割合は43.3%で、かつその半数以上が非正規雇用であることや、出産・育児期に就業率が低下するM字カーブがいまだ顕著であること。管理職以上の意思決定層に占める女性の割合も7.5%と、国際的に見ても特に低い水準であることなどの現状をかえりみて、国としても新たな法整備の必要性が望まれました。

第2次安倍政権下では、女性の活躍推進の取り組みを一過性のものに終わらせず、着実に前進させるための新たな総合的な枠組みを検討するとされ、また、地方公共団体民間事業者における女性の登用の現状把握と目標設定に向けた自主行動計画の策定を図ることとされました。これは少子高齢化の進展に伴い、労働力不足の加速が予想され、女性の潜在的能力の活用に求められたことや、多様な人材を活用していこうとする産業界における気運の高まりなどにより、平成27年新たに女性活躍推進法が施行されたと理解しているところでございます。

さて、今回の私の質問の主旨にもございますように、町では計画づくりは整えられていますが、PDCAのD、実施のために、具体的に何をしたかが正直ちょっと見えません。

まちづくりにおける女性の力が生かされないままの施策が続いてるように思えてなりません。

以前、私の質問で、府川町長は、男女共同参画の実現は、日本の将来を決定づける最重要課題であるとお答えになりました。

そこで改めて町長のお考えをまずお聞きしたいと存じます。女性活躍推進法の制定をどのように理解され、まちづくりに生かそうとお考えなのか。また、それらを踏まえて新たな取り組みをされたのかお聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

下山議員がはじめに、開成町が女性の力をうまく引き出してないというふうな形で

言われましたけども、確かに総合計画の目標の中の40%という数字からいけば、今の達成率は大分低いと。それはもちろん認識しています。

私が認識してるのは、もちろんそうなのですが、その数字だけではなくて、実際、開成町を今見ている中で、女性の力が発揮されてないというふうには、私は感じておりません。

つい先日のひな祭りも終わりましたけども、なんといっても、女性の皆さんの力であのひな祭りがスタートしたということで、行政がやってることよりも、もっと大きな意義があるひな祭りだなというふうに感じておりますし、先日、終わった後、婦人会の会長さんと、今後の婦人会についての意見交換をさせていただきましたけども、やはり婦人会においても、新たな若い女性の皆さんが、なかなか入ってきてもらえないという、そういう課題の中で、どうしようかという話の中で、青年部という言い方はおかしいのだけど、女性の若い人たちの部をつくって、若い女性の皆さんがやりやすい形、婦人会とは別に、そういうふうな形を考えて行く必要もあるのかなというふうな意見交換をさせていただきましたけども、様々女性の皆さん、団体の皆さんも、この問題について色んな課題に対して、どういうふうに解決していくかという考え方を持って、私もそれに対して意見交換をしながら、どうやったら行政として、それを課題を回復していくかという、今、意見交換をしているところでありますし、様々なところで、数字ではない部分において、女性が私は開成町において、活躍しているなというふうには。

開成町が、人口が伸びて、子どもたちも増えて、元気だという中で、その中でさらに女性の皆さんが元気だからこそ、開成町は元気でいられるというふうには私は認識しておりますので、それがまだ数字的にはまだ不十分だということは、もちろん分かっておりますけども、そういう点において、開成町が、まだ女性の力を引き出せないとは私は認識はしていません。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

婦人会さんに関しましては、開成町の三大イベントに常にかかわっていただき、協力をいただいて、大変感謝するところではございますが、数字が第五次総合計画前期計画で40%に示されているのに、やはり26.8%であるということは、如実に数字があらわれている証拠ではないかと私は読みまして、そのように表現させていただきました。

では、随時質問を続けさせていただきます。女性の活躍が著しく目立つようになったのかなのかどうかを冷静に受けとめてみても、数字の上でも重なりますが、そう変化は感じないわけでございます。それは大きな課題であると受けとめてございます。女性の活躍の必要性を感じている動きが、世の中では出てきております。

例えばですが、特に南足柄市や近隣の町では、女性議員の立候補者の動きがあるの

に、開成町では、先ほど町長が言われましたが、人口が増えて元気な町のイメージがあるのに、動きが全くございません。進展していない現状を、町は問題意識を持つ必要があると考えますが、この点についてのお考えを伺います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

南足柄市でこの間、タウンニュースで三人の女性が立候補するというふうに出ていました。結構目立ちましたね。私もすばらしいことだなと思いました。

今、下山議員は、開成町の町の議員の女性の話がありましたけれども、私はこれはやはり議会として、例えば、新しく議員さんがなってもらうために、若い人になってもらうには、どうしたらいいか。女性の議員さんが誕生するにはどうしたらいいか。これは議会の中で、どういうふうな議会改革をしていけば、そのような立候補者が増えていくかというのは、議会の中で考えて、議会で改革をしていく課題ではないかなと、私は議員経験もありますので、そのように、これは行政はもちろん、支えとしては考えるのはありますけれども、これは議会の話なのかなと、私は認識をしております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今、町長答弁いただいたわけですが、後でちょっと述べさせていただこうと思ったのですが、町長がそのようにお話をされたので、ちょっと前倒しして御紹介をさせていただきます。

開成町では、議長の許しを得て、今の資料をお読みいたしますが、1994年5月に、これは平成2年から5年の間に起こった開成町の事実のことでございます。広報かいせいには、町女性行政懇話会が男女平等の意識づくりと女性の参画を提言というテーマで紹介されてございます。その中には、開成町女性行政懇話会が、3月末、参加と協働のまちづくり推進会の提言をまとめ、町長に提出いたしました。これは新開成町総合計画ヒューマンストリーム開成21、参加と協働によるまちづくりに基づき、住民代表として委員を受けた13名の委員、女性8名、男性5名が一昨年10月から5回の懇話会と延べ7回のグループ別討論会で検討を重ねてきたものです。と書いてございます。そして、提言書は、教育、労働、福祉、社会参加の4本の柱で構成され、男女平等への意識づくりと女性の行政参画への分野別方策を訴えています。

町では、提出された提言をもとに、男女平等の視点に立った、生涯教育の推進や意識啓発、労働環境の整備や行政参画促進について、住民意識調査や広報広聴の広聴事業を実施しながら、具体的な指針である行動プランを策定していきます。と提言を出されております。

ですので議員のなり手がいないというのは、確かに議会のほうの、一種あるかもしれませんが、やはり町の雰囲気とか、支援していただく行政の力も大変大きい

のではないかと感じております。

次に、毎年2月、3月ごろになりますと、自治会の三役のなり手不足で、各役員さんが苦勞されております。自治会長会議でも特に男性にこだわらずに積極的に女性役員の登用を促しても良いのではと考えますが、その点はいかがでございましょうか。また、現在の各自治会の状況はどの様でございましょうか。お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、自治会の役員の関係が、話がありましたけれども、私としても、もちろん町としても、女性の自治会長さん、副自治会長さんをはじめ、役員の方になっていただきたいなというふうには思っておりますし、そういう促しも、各地域の自治会の皆さんには、そのような話をしております。現実的になかなか、女性の自治会長さんはまだ誕生はしておりませんが、そのような促しというのは、実は内々そのような形で、していることは事実であります。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（小玉直樹）

それでは、私のほうから、後段の現在の自治会の状況、女性役員の状況について、お答えいたします。町内14自治会の自治会長、副自治会長の役員総数が全部で48名でございまして、その48名に対しまして、女性の役員、いわゆる副自治会長であります。登用されている自治会については、全部で4自治会4名で、役員全体に占める女性役員は8.3%というのが現状でございまして。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

毎年、毎年、指名委員さんや、各自治会の方々は、自治会の三役に対する役員の選出に大変御苦勞をされているというのは、私も承知しているところでございまして。ぜひそういった意味でも、町としても何らかの方策をとっていただきたいなというふうには考えてございまして。

次に、庁舎内における女性職員の登用率が上がらないのを、どのように捉えていますか。今後は積極的に女性職員の採用を考えていくべきだとは考えてございまして、この点について、どのようなお考えをお持ちでしょうか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

総務課長。

○総務課長（山口哲也）

それでは、ただいまの下山議員の御質問にお答えいたします。ちょっと細かい数字

の羅列で大変恐縮ですが、お許してください。

現在の開成町職員の中で、女性職員が占める割合、これは37.4%、他町ですが、公表されているデータ、若干ばらつきございますが、申しあげます。中井町が、35.6%、松田町が37.5%、大井町が38%、山北町が39.4%となっています。開成町、特段低いというわけではございませんが、目標値としましては45%程度というのを一つ掲げていますので、こういった形で、ぜひ目標達成したいと。

ただ、1点申しあげておきたいのは、我々採用する側といたしましては、特に男性、女性という区別、差別は全くございません。開成町のために、町民のために、一生懸命働きたいと思っている職員を採用したいと思っておりますが、そこは御理解いただければと思います。

また、管理職への登用の状況でございます。こちらもちよっと数字が細かいのですが、申しわけございません。現在、開成町では9.1%、中井町で15.4%、松田町で7.1%、大井町が5.9%、そして山北町が6%となっております。こちらにつきましても、我々といたしましては、必要な知識を持ち、経験を積んだ、そういう判断がされれば、積極的に女性であっても、管理職に登用していきたいと、このように考えております。

以上になります。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

もちろん私も、男性、女性という区別ではなく、今回は、男女共同参画というテーマで質問させていただいておりますので、ちょっと偏った捉え方をされたのかなというふうには思いますけれども、御理解いただきたいと思えます。

今回の質問をさせていただくために、近隣の今、課長がおっしゃったような、私なりに、独自に調べたわけでございます。同じような数字でございましたので、どこの町も、同じような御苦勞をされているのかなというのは、感じているところでございます。

次に、総合計画の前期計画期間が終わりまして、31年度からの後期計画期間がスタートいたしました。各種審議会への女性委員登用率を前期計画と同じ数値の目標数値の40%を挙げられております。前期の目標値40%に対して、基準値が26.8%であったわけでございますが、後期計画も同じ40%の目標値で取り組まれております。優先度も星二つと同じで、取り組まれる内容も、ほぼ前期と同じように感じてございます。40%を達成するためには、これまでよりさらに一歩踏み込んだ取り組みが必要と考えますが、そのための具体策をどのように議論されたのか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（小玉直樹）

それでは、お答えいたします。先ほどの町長の答弁でもあったのですが、内部でいろいろ審議会の女性委員の登用策ということで、結果として、現状地は26.8%ということでした。前期も40%の目標を掲げていたのですけれども、前期の当初は22.7%ということで微増はしているのですけれども、前期の間中でも、30%を超えた年もありましたが、結果として、40%には届いていないということで、引き続き、後期の総合計画の目標値も40%置かせていただいているというのが現状でございます。

どういった取り組みということなのですかけれども、先ほどの町長の答弁でもありましたが、まずはそれぞれの審議会の中で、一般公募枠をもう少し拡大できないかといった検討ですとか、推薦母体である、団体自体の女性比率が高められるような関係団体の働きかけ、そういったものは引き続き後期についても行っていきたいと。

また、うちのほうの関連の自治会長、自治会の関連で言えば、自治会長会議での意見交換の場で、そういったような議題を出したりですとか、地域、リーダー研修会での積極的な女性の参加を促して、少しでも女性委員の登用率が上がるように、今後も引き続き取り組んでいきたいと、そのように考えているところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

内容は分かりましたのですが、繰り返しになりますが、目標値が40%というのは、同じでございますし、それに対して基準値が26.8%であったわけでございます。ですので、本当に真剣に今、課長答弁いただきましたが、頑張っていたいただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

それでは次に全体で24の審議会ございますが、個別計画の中で、女性目線が活かされる分野、例えばごみの問題ですとか、防災、環境問題、福祉といった分野において、特に女性の多様な視点や感性がますます重要になってくると感じております。以前にも提言させていただきましたが、防災において、本部つきの女性を一人でも置かれれば、潜在的にきめ細かな視点で、開成町らしい取り組みや、サービスの提供ができると思われませんか。当時は男性の団員不足で、まずは女性よりも男性優先の答弁でございました。現在は108人と充足されておりますので、次のステップとして、ぜひ男女共同参画でございますので、女性の本部役員を一人でも雇用させていただけたらどうかと思っております。質問をさせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

消防団員、実はまだ108人に達しておりません。一部まだ不足しているということで、消防組織強化という協議会をつくって、今、自治会の皆さんの御協力を得て、今、少しずつ増えつつありますけれども、まだ達しておりません。以前、下山議員か

ら、本部づけの女性の団員ということで、これは本部の役員の皆さんも、その辺のことはきちんと認識をしております、できればそういうやっていただける女性団員を紹介していただければ、すぐにでも候補として、本部づけにはできる、今、下地はできているつもりでおりますので、なかなかそうは言ってもそういう人たちが、実際、やっていただける方が、町としても見つけ出すことができないのが現状でありますので、できればそうやっていただける方を紹介していただければスムーズに登用できると認識しております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

3. 11から8年の年月が経過するわけですが、そのときに、テレビの画面で、本当に未曾有のああいう災害があるのは、本当にショックでございました。そのときに、体育館で避難されている、そういう中で、乳飲み子を抱えたお母さんや、高齢者に対して、体育館の中で段ボールで仕切りをつくって授乳をされたとか、手当をされたとかというような新聞報道やら、テレビでも、そういう放映がされていたわけでございます。それもやはり女性の意見だったそうでございます。そういうきめ細かな女性は、子育てをしたりしておりますので、身を通して体験したことは、体が覚えておるわけでございますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

またも開成町では、山を抱えてはございませんが、二級河川の酒匂川が流れているわけでございますので、過去には氾濫をして、大口が決壊をして、大変な開成町でも経験をされているわけでございますので、ぜひ女性の登用をお願ひしたいと存じます。

では、問2の質問をさせていただきます。女性リーダーの育成などが重要であるとの問題意識をというの質問をさせていただきます。女性リーダーの育成などが重要であるとの問題意識を町としても持っている旨の御答弁がございましたが、先ほどから申しましたように防災リーダーの研修会などを実施して防災意識の向上を図られておりますが、これと同様に女性のリーダー育成のための開催をされたらいかがでしょうか。伺います。

○議長（茅沼隆文）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（小玉直樹）

それでは、お答えします。今、防災リーダーとの研修で、女性リーダー育成のための開催というような御質問でありましたが、防災リーダー研修ですとか、地域リーダー研修については、男性のみを対象としリーダー研修ではないというのが、まず1点でございます。女性も含めた中の、リーダー研修として開催しているということでございます。

男女共同参画という観点では、男女区別なく、対等な関係で、性別といった固定観念にとらわれずに、お互いを理解し、尊重できることが大切であるという考えである

ことから、女性だけに特化したリーダー研修会の開催というのは、現時点では考えていないということでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

広報紙などに写真が掲載されている中で、女性が確かいらっしゃらなかったのも、そのように判断したわけですが、よく分かりましたので、女性もそういう研修会に出てくださいというふうには思っております。

開成町では、平成2年から、先ほど申しあげましたように5年にかけて、先進的に町女性行政懇話会が開催されております。そして、その後でございますが、架け橋という、男女共同参画のスタッフたちが出されている情報誌がございます。2003年3月、2004年3月のちょっと御紹介をさせていただきます。その中には、女性の模擬議会を16人が体験されたと。次はあなたも参加してみませんか。というような見出しで、「開成のかけはし」が発行されてございます。

これは私が考えますのに、やはり参加と協働によるまちづくり推進への提言をここでも取り扱ってございます。

この女性模擬議会をなぜ開催したのという問いに対しまして、平成14年3月に策定されております、開成男女共同参画プランを推進し、ここが大事なのですけれども、町の各審議会委員など、政策や方針決定の場に女性が参加していくきっかけづくりとして開催されました。と記載されてございます。当時の前町長の露木町長をはじめ、高橋教育長、各課長が答弁され、模擬議会が開催されてございます。翌16年の情報誌のナンバー3では、男女15人の参加で、第2回の模擬会を開催されております。

町長にお伺いいたします。先ほどの答弁の最後の部分で、今後も、広報誌やホームページなどで、男女共同参画に関する取り組みの事例の償還や、関係団体等との協働を進め、あらゆる分野において、女性力の活用を促し、積極的な参加と登用を働きかけていくとのことですが、私の感触といたしましては、少し具体性に欠けているように思いました。

提案でございますが、情報紙のかけはしを啓蒙、啓発に発行されておりますのは、大変結構なことではございますが、かけはしは年1回の発行でございます。

平成30年度には、私もかけはしの情報紙は、毎年読ませていただいております。平成30年度、ナンバー20、20回という発行をしてございます。そこで広報紙は毎月ですので、男女共同参画の見える化シリーズとして掲載してみたいかでしょうか。今月の開成広報紙を見ますととても良い紹介がございました。元気便り、子育てナビ、A4の用紙の3分の1のスペースで紹介されてございます。

例えばでございますが、町でも大変御活躍いただいて、また先ほど町の三大イベントで常に御協力をいただいております、婦人会さんを紹介して、コメントをいただくとか、御答弁にもございましたように、中家村地域の女性の防災グループが、今では神

奈川新聞やいろいろなメディアの世界でも取り上げられて、大活躍をしている開成町の女性の団体がございます。そういう方たちを見える化コーナーとして、この開成の広報に取り上げて、男女共同参画のPRとか、そういうものをされたら、私は開成町の女性の意識も少しずつではございますが変わるのではではないかというふうに期待して述べさせていただいてございます。

町では、私のこういう提案に対していかがでしょうか。この開成の広報紙の一部に見える化コーナーとして、そういう男女共同参画を載せるとか、掲載していくというお考えはいかがでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

たまたまこれ今日持ってきたのですけれど、下山さん、そういう話が出るとは思わなかったのですけれど、この企画に対しては、様々なシリーズが、その年度年度によって、今回は開成町で構えている飲食店組合の皆さんのシリーズで載せたり、その年、年によって、いろいろな企画をしながら考えてやっているというのはありますけれども、今回の3月号のこれを見ても、さまざまな女性の皆さん活躍されている姿が出ているのかなという、祭り特派員4人のうち、2人女性の写真もちゃんと出ていますし、今回の総合計画について、町の職員が、若手職員が、8の施策について、8の事項には女性の職員が、ちゃんとこういうところ登場しているし、また、審議会の委員も、ちゃんと男女一人ずつ掲載もされているし、さまざまなものが、その後で行くと、指導隊の隊長さん、女性だし、下水道コンクールで受賞した、これは子どもですけれど、4人とも女性、女の子、さまざまところで、町としても活躍している女性の皆さんをこういうところで紹介もしています。

先ほど、具体的に、中家村のたんぼぼの話だと思えますけれども、たんぼぼの皆さんも、町のいろいろな補助の関係で、さまざまところで活躍していただけるように、助成をして、冊子をつくって、配付をしたりということで、個別にもきちんと、そういう女性の皆さんが活躍している団体に対して支援をしていく。それを町の広報紙で載せたり、PRしながら広げているというふうには、現実的にはやっていることでありますので、シリーズについては、また、これは企画の中で考えることでありますので、一つの案として検討をさせていただきたいと思えます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

先ほど申しあげましたように、第五次開成町総合計画後期基本計画に、目標値が40%、そして、高い数字を掲げられておりますので、前期の数字のような、26.8%ですか。それよりももっと高い数値を挙げられたらうれしいなというようなことで、今回、男女共同参画にも対して、いろいろな私も調査研究して、町民の聞き取りなど

もしまして、この場に臨ませていただいております。

ぜひ、6年後ですよ、後期基本計画が終了するのは。そのときに、ぜひ、今よりは高い数字で掲げられることを期待しまして、町長をはじめ、町の職員が一丸となって、男女共同参画に取り組んでいただけたら、大変うれしく思います。これで私の質問を終わります。

○議長（茅沼隆文）

それでは、これで下山議員の一般質問を終了いたします。